

葬儀の記

— 遺骨奪はれの記 —

去る九月十六日、憲兵司令部内に於て虐殺されたる大杉榮・伊藤野枝・橋宗一・三君の遺骸は、同二十四日、府下落合火葬場にて荼毘に附し、遺骨となして一時労働運動社に安置なしありたり。然るところ、今回準備やうやく整ひたるを以つて左の如く葬儀執行の事に決定せり。

同志、知己諸君の参席を望む。

□時 日 十二月十六日午後一時

□場 所 谷 中 齋 場

□儀 式 無 宗 教

葬儀準備委員

新聞印刷工組合正進會 和田 榮 太郎
 日本印刷工組合信友會 水 沼 辰 夫
 芝 浦 勞 働 組 合 佐 藤 陽 一
 機 械 技 工 組 合 田 中 貞 吉

同 上 井 上 昭
 本芝労働組合有志代表 高山 久 藏
 同 上 神 田 明 徳
 純労働組合有志代表 戸 澤 仁 三 郎
 同 上 依 次 雄
 關東車輛工組有志代表 長 倉 宇 吉
 同 上 水 上 國 彦
 明 治 電 友 會 高 橋 徳 太 郎
 瓦 斯 電 氣 技 友 會 皆 川 利 吉
 工 友 會 薮 薮 徳 次 郎
 サラリマン同盟 江 川 菊 次 郎
 ステロ社有志代表 坂 口 喜 一
 S S 會 渡 邊 公 平
 組 合 運 動 社 佐 藤 護 郎
 白 由 人 社 平 岩 巖
 農 村 運 動 同 盟 望 月 桂
 黒 勞 社 長 沼 富
 朝 風 會 武 良 二
 北 風 會 村 木 源 次 郎

勞 働 運 動 社 近 藤 憲 二
 葬 儀 事 務 所 勞 働 運 動 社
 右の通知を全國の各労働團體、思想團體、及び同志知己諸君に發したのは、十二月二日であつた。

葬儀の前日から、地方の同志諸君十数名も遙々事務所へ訪ねて來た。各地からの弔文弔電は引きもきらなかつた。

所が愈十六日の朝八時頃、皆んなが朝飯にかからうとしてゐた時の事だ。二人の夫婦の男と共に、四十恰好の紋付羽織袴の男が訪ねて來た。岩佐が應對すると、「福岡縣飯塚炭坑・下鳥繁造」の名刺を出し、九州から葬儀に加はらうと思つて態々來た者だ、と丁寧挨拶をした。岩佐も丁寧に謝意を述べてゐた。そこは遺骨の置かれてある部屋だつた。やがて其の男を残して隣の一室で皆んなで食事にとりかかつた。

と、紋付羽織は遺骨の前に黙禮してゐたが、急に白布に一包にされてゐた三君の遺骨を左小脇に抱き、右手にピストルを握つて『この骨は俺が貰つて行く』と怒鳴つた。食事をしつゝ近藤がこの聲と共に立上つて隣室へ馳けつけた時には

奴は早くも椽まで飛びだし、遺骨を人夫體の男に渡して、ピストルを突きつけ、自らも後づさりに表へ逃げ出した。近藤は直ちにこれを追つた。門の所でだ、しかも一間半ほどしか離れない所でだ。奴は立ち止つてピストルを擬した。二人は黙つて睨み合つた。やがて近藤の聲で『打て！』云ふと同時に、彈丸は耳をかすめて板塀を貫いた。近藤は再び『大丈夫！空丸だ！』と怒鳴りながら、和田久と共に追つた。野郎は振り返つて二度和田に發砲したが、何れも當らなかつた。皆んなも續いて追つた。野郎は又も三四發うつた。労働運動社から半丁ばかり離れた電車通りで、和田と近藤が前後から組つき、直ちに皆んなで引き倒した。そこへ駒込署の警官が來て連れ去つた。

しかし人夫體の男の持ち去つた遺骨は、奴等が用意してゐた自動車に乗せられたので、大勢で追つたのだが、逃してつた。後で聞けば、この骨泥棒の主犯は大化會の下鳥繁造で葬儀防害のために大化會の企てた仕事であつた。奴の放つたピストルは勿論實彈であつたんだが、誰一人負傷せなかつたのは不幸中の幸ひであつた。しかし何しろ、大杉君等の遺骨を奪取された事は、僕等の油断からであつた。

顛末を述べて深く同志諸君に謝す。

□

この騒ぎのために、みんなは一段の緊張と決心とを以つて葬儀に臨んだ。そして遺骨のなくなつた事は葬儀をして一層無宗教ならしめた。十一時出發、三君の弔旗寫眞を護つた一隊は、列をなして谷中齊場に向つた。

午後一時、參會者約七百場の内外に溢れ、祭壇に掲げられた三名の寫眞のまはりには、二十數旛の團體旗と紅白の花輪を以つて飾られてゐる。血走るばかりに緊張しきつた同志の眉宇には侵すべからざる或ものがある。

司會者岩佐作太郎、壇上に立つて開會を宣し、先づ遺骨を奪はれた顛末を述べて會衆諸君に謝し、大杉等虐殺事件の真相を曝露し、更に聲を勵して、一個の行動よく百千の議論に優る旨を述べ、滔々四十分に亘り、全身の熱をこめて同志に警言し覺悟を促した。

次いで和田久太郎、別稿三君の略傳を読み、續いて葬儀準備團體の各代表者、黒煙會、農民運動社、關東機械工組合、ネストル社、社會春秋社、地方同志代表、友人總代、其他、



式場の一部 Funebro (dōorai)



來會者の群 Funebro (kunvenantoj)

都合三十幾名が、或は熱烈なる弔辭を読み、或は熱心なる追悼演説をやつた。會衆は心からの拍手聲援を以つて之れを迎え送つた。其の間に、京都印刷工組合、朝鮮無産青年會、朝鮮労働聯盟、東京朝鮮労働組合、朝鮮労働大會準備會、廣島の黒陽會、大阪の自由民協會、吳の黒潮會、神戸の極東平民社、新潟のレッド・グループ、其他、及び各地同志からの弔文用電を読みあげて氣勢を添えた。尙、遠くフランスの同志の送つてくれた弔文は次ぎの如くであつた。

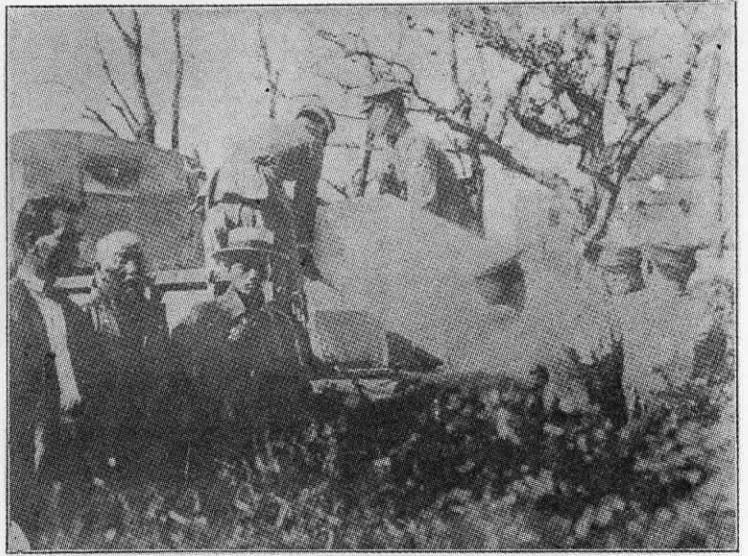
今日、我々は、我々の同志大杉榮、伊藤野枝、若きムネカツ、マチバナの恐るべき虎殺を知つた。
世界を越へて、我々は憤慨に耐へざる抗議を送り、且つ我々は叫ぶ。

勇氣！ 希望！

北部フランス・アナキスト同盟

午後四時、司會者岩佐、閉會を告げ、三君の萬歳を高唱して式を閉じた。が、暫らくは祭壇を圍んで會旗をひらめかせ弔歌、革命歌、拍手、足踏みは場をゆるがせ、新聞社寫眞班のマグネシウムの爆音はやまなかつた。

やがて途中示威行列をなして勞運社へ引き上げたのは薄暮近い頃であつた。



衛戍病院から出る大杉君の遺骸
La cerko de Osugi, elportat de Milita Hospitalo

岡山の追悼會

十二月十六日午後六時から、中國労働聯合會有志主催の下に、大杉君等の追悼會を岡山禁酒會館に開催した。参加者は聯合會の組合員約六十名、正面の三君の寫眞は花輪をもつて埋められた。

機械労働組合の高木精一君開會を宣し、聯合會の玉田徳三郎君追悼文を朗讀し、紡績労働組合の太田君感想を述べんとするや、警官三四十名會場に崩雪こみ、憲兵隊からも來り監視するあり、國粹會員までが階下に陣どるなど物々しい警戒であつた。階上には機械労働組合の糸島孝太郎君等の猛者と警官と衝突し、全員總立ちとなつて將に亂闘を見んとしたが會場の責任者たる入江秀夫君は「警官は追悼會を妨害せんとするか」と怒號して威壓し、やうやく會場の混亂を避けた。續いて各組合員交々立つて追悼演説をやつたが、官憲の壓迫甚だしく、注意！中止！の連發にあつた。印刷工組合の岡本加一君、労働運動社からの「黒旗高くかかげよ！」の電文を初め各地からの電文を朗讀した。この時、小作組合の山下儀平次君遙々來り加はる。自由労働組合の船倉君の「黒き心を眞黒にして……」の語を最後として十一時散會した。

大阪の追悼會

十二月十六日午後二時から、在阪同志主催の下に、東區東雲町心眼寺に於て三君の追悼會を開催した。祭壇の三君の寫眞及び遺骨の周圍は、花、黒旗、組合旗を以つて彩られ、和歌山、神戸等の同志も加はつて參會者百餘名。府特高課長以下警官隊も同じく百餘名來り備ふ。

生島繁君開會の挨拶を述べ、續いて黒社、自由人社、紡績労働組合、大阪鐵工組合、關西自由労働者組合、大阪印刷工組合、先驅者同盟、醒光社、交通労働組合、自由青年革新團、オール新聞配達人同盟、熱血團、正進會在阪員、前平民政府、労働運動社關西支局などの弔詞が讀み上げられたが、其の内の三四を除いて全部臨監警部のために中止を命ぜられた。其の度びに拍手、怒號、罵聲を以つてこれに應じた。

續いて弔電披露の後、久保護君閉會の挨拶を終るや、全員組合旗または團旗を翻えして、祭壇を圍み、弔歌と拍手とは暫し場内に響き満ちた。警官は呆然として傍觀してゐた。かしくて四時散會。